

ボツワナでは日本の格闘技が大人気！

在ボツワナ日本国大使館

日本から約1万4千キロ離れたボツワナでは、日本の空手と柔道が国民の間で人気となっています。

空手は、数十年前からボツワナ国防軍における徒手格闘や警察での逮捕術に採用されており、一般国民からも注目を集めています。ボツワナ空手協会（BOKA）が熱心に普及活動を進めており、ボツワナの空手家の中には2020年の東京オリンピック出場を夢見て日々努力する者もいます。有力選手が海外で行われるオリンピックの予選大会に出場できるよう、募金活動が大々的に行われているほどです。

ボツワナにおける空手の普及のために、日本も様々な支援をしてきました。日本政府は、草の根文化無償資金協力（以下「草の根文化無償」）のスキームを通じ、ボツワナ空手協会に対し、2009年に空手道場建設のために約8万7千ドル、2018年には同道場の拡張工事のために約8万5千ドルを供与しました。また、2012年2月、国際交流基金の支援を受けて日本から空手専門家が派遣され、ボツワナの空手演習者に対する指導を行うとともに、一般市民の日本文化に対する理解促進にも大いに貢献しました。同年8月にはボツワナ空手協会に対し外務大臣表彰を行い、日本との関係を更に強めました。2015年12月には、黄川田外務大臣政務官（当時）がボツワナ訪問中に、草の根文化無償により建設された空手道場を訪問し、ボツワナ空手協会による空手デモンストレーションを視察しました。

ボツワナでは空手トーナメントが頻繁に開催され、日本国大使がトーナメントや関連事業に招かれることもあります。また、主要紙がこぞってスポーツ面にトーナメントの様子や空手家の写真を大きく掲載することからも、ボツワナにおける空手人気を知ることができます。

一方、柔道は、人口約220万人のボツワナにおいて、競技人口は現在約800人です。数年前には数十人程度だった競技人口はここ数年で急激に増加し、柔道は人気スポーツの一つになりつつあります。2016年、ギャビン・モホパ選手はボツワナ人として初めてリオデジャネイロ・オリンピックに出場しました。残念ながら初戦で敗退しましたが、モホパ選手のオリンピック出場はボツワナ柔道界において歴史的な出来事となりました。

このような活躍の背景にはこれまでの青年海外協力隊の活動，なかでも故・井坪圭祐隊員（2014年に不慮の事故で逝去）による献身的な活動，NPO柔道教育ソリダリティー，講道館，東海大学などによる技術指導および普及支援がありました。

また，かつては，ボツワナには柔道場がなかったため，国立競技場の観客席下の狭く薄暗いスペースに畳を敷いて練習し，国内大会を開催するために小学校などの公共施設に畳を運び込んで開催するなど，柔道場がないことが効果的な普及および発展に大きな障害となっていました。そこで日本政府は，2016年度の草の根文化無償資金協力で柔道場の建設を支援し，柔道場「井坪先生記念道場」が完成しました。道場ではこれまでの逆境を跳ね返すように，ボツワナの柔道選手が，日々練習に励み，また各種国際・国内大会なども開催され，ボツワナの柔道の発展に大きく貢献しています。井坪隊員の指導を受けたモホパ選手は，「柔道場の完成により練習環境が向上した。ここで練習を積んで，井坪先生と日本への恩返しとして東京オリンピックに出場したい」と意気込んでいます。

2018年7月からは村上瑠希也（るきや）さんが青年海外協力隊の柔道隊員としてボツワナ柔道連盟に派遣されており，引き続き日本の支援がボツワナ柔道の発展に貢献することが期待されます。

2020年の東京オリンピックに向けてボツワナの空手熱，柔道熱が一層高まり，日本の格闘技を通じて日本とボツワナの関係が更に深まることが期待されます。